

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福山大学
設置者名	学校法人 福山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配 置 困 難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
経済学部	経済学科	夜・通信	0	30	51	13			
	国際経済学科	夜・通信		16	37	13			
	税務会計学科	夜・通信		22	43	13			
人間文化学部	人間文化学科	夜・通信	0	14	35	13			
	心理学科	夜・通信		14	35	13			
	メディア・映像学科	夜・通信		26	47	13			
工学部	スマートシステム学科	夜・通信	21	41	62	13			
	建築学科	夜・通信		50	71	13			
	情報工学科	夜・通信		34	55	13			
	機械システム工学科	夜・通信		26	47	13			
生命工学部	生物工学科	夜・通信	0	18	39	13			
	生命栄養科学科	夜・通信		25	46	13			
	海洋生物科学科	夜・通信		28	49	13			
薬学部	薬学科	夜・通信	0	27	48	19			
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://zelkova.fukuyama-u.ac.jp/public/web/syllabus/websyllabuskensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
上記 URL のシラバス検索（検索条件設定）画面の「実務経験のある教員による授業科目」で「○」を選択し検索。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福山大学
設置者名	学校法人 福山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukuyama-u.com/Information_disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	商 工 会 議 所 名誉会頭	2018.5.27～ 2020.5.26	経営・財務・産学連携
非常勤	(公財) 振興財団 理事長	2018.5.27～ 2020.5.26	経営・財務・教育連携
非常勤	法律事務所 弁護士	2018.5.27～ 2020.5.26	コンプライアンス
非常勤	(一財) 教育協会 代表理事	2018.5.27～ 2020.5.26	教育連携・国際連携
非常勤	現 無職 元 広島大学学長	2018.5.27～ 2020.5.26	教育・研究
非常勤	運輸会社 社長	2019.7.20～ 2020.5.26	経営・財務・産学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福山大学
設置者名	学校法人 福山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

- ・シラバスの記載内容は以下のとおりである。
① 授業のねらい(概要)、②ディプロマ・ポリシーとの関連、③授業(学修)の到達目標、④授業計画(各回の授業内容)、⑤修得しておくこと望ましい科目等、⑥履修上の注意事項等、⑦定期試験(実施有無)、⑧成績評価の方法・基準、⑨課題に対するフィードバックの方法。
- ・シラバスの作成にあたっては、「福山大学シラバス作成要領」に沿ってシラバスを作成するよう全シラバス作成担当教員に周知(依頼)している。
- ・シラバス作成についての学内FDを実施している。
- ・第3者によるシラバス点検を実施している。
- ・シラバスはホームページに公開している。

授業計画書の公表方法	『福山大学シラバス作成要領』 http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201905/2019_syllabus-guideline.pdf 「授業科目のシラバス公開」 https://zelkova.fukuyama-u.ac.jp/public/web/syllabus/websyllabuskensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 『学生便覧』(刊行物) 『教務のてびき』(刊行物)
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業の成果（学修到達目標の達成度）を測定する方法や基準（「成績評価の方法・基準」）をシラバスに記載し、それに基づいて評価（単位認定）をしている。また、アセスメントポリシー（学習成果の評価の方針）定め、評価している。

アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）

各学科在学中の特定学期・学年修了時などに行う学生の学修成績に関する形成的評価とともに、卒業論文における卒論ループリック評価または試験による評価、ならびに予め定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに照らして全在学期間にわたる学修状況について行う総括的評価により、学生の学修成果を評価すると同時に、本学科における教育の在り方の適切性を評価する。具体的方法は以下に示す。

具体的な評価方法

学位授与の方針に掲げる資質の修得度に関しては、「学生レベル」「学科レベル」「大学レベル」の3つのレベルで評価する。この評価により、学生の資質修得度についての形成的評価・総括的評価および教育プログラムの評価を行う。

1. 学生レベルの評価

① 授業科目の成績評価

シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。評価方法は、ペーパーテスト、レポート・プレゼンテーションのループリック評価など、学修内容に適した方法で行う。卒業（課題）研究は、学科で定めたループリックにより評価を行う。この成績評価により、当該科目の学修目標の到達度を確認する。

➤ 成績評価は以下に基準に従って判定し、当該授業科目の学修目標の到達度を確認する。

秀	(90点～100点)	：特に優れた成績
優	(80点～89点)	：優れた成績
良	(70点～79点)	：良好な成績
可	(60点～69点)	：良好に達していないが合格の成績
不可	(60点未満)	：合格と認められない成績

② 資質の評価

➤ 資質を構成する4個の中項目※について、以下のように評価を行う。

1～4年次：関連科目の成績から、学生個々の「学科の学位授与の方針に掲げる資質（中項目）」の修得度を算出し、レーダーチャートで可視化する。資質の修得度は、授業科目の成績、単位数、各中項目との関連度から算出する。この資質修得度およびレーダーチャートを用いて、学修成果の形成的評価および総括的評価を行う。

➤ 資質（中項目）の修得度は、以下の基準に従って評価する。

修得度 3.3 以上 4.0 以下	：特に優れている
修得度 2.8 以上 3.3 未満	：優れている
修得度 2.0 以上 2.8 未満	：良好である
修得度 1.0 以上 2.0 未満	：良好に達していない

2. 学科レベルの評価

学生が卒業時、学科の教育プログラムによって、「学科の学位授与の方針に掲げる資質」がどの程度修得できているか、「学科の学位授与の方針に掲げる資質の修得度アセスメント表」を用いて評価する。

3. 大学レベルの評価

学生が卒業時、学科の教育プログラムによって、「大学の学位授与の方針に掲げる資

質」がどの程度修得できているか、「大学の学位授与の方針に掲げる資質の修得度アセスメント表」を用いて評価する。

※中項目：

- 1)広い視野 2)経済に関する理解 3)応用力 4)実践能力

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・本学は、G P Aを算出し表示することで、学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。具体的には、合格科目だけではなく、不合格科目や受講を途中で止めた科目も成績評価の対象となり、今まで以上に真剣な履修登録、授業への取り組みを期待しています。また、クラス担任等から、G P Aの結果に基づいて、履修登録や学修支援などを受けることによって、学修成果をさらに向上させることにもつながります。G P Aの5段階(4点～0点)評価は、秀(100～90点)は4点、優(89～80点)は3点、良(79～70点)は2点、可(69～60点)は1点、不可(59点～0点)及び受講・試験放棄は0点をそれぞれの評価点と設定し、年度ごとの「学期G P A」と、入学時から通算の「通算G P A」の2つのG P Aを次式により算出します。ただし、卒業要件に含まれない科目及び認定または合否によって単位を修得した科目は、G P Aの対象科目ではありません。

(1) 学期G P A 当該学期について

(評価を受けた科目の評価点×その科目の単位数)の合計／当該学期の総履修登録単位数

(2) 通算G P A

(評価を受けた科目の評価点×その科目の単位数)の当該学期の合計／当該学期までの総履修登録単位数

- ・学期G P Aが2期連続して「1.0」を下まわった場合は、クラス担任が指導を行います。
- ・学期G P Aが3期連続して「1.0」を下まわった場合は、保証人同伴のうえ、学部長又は学科長が厳重注意を行うことがあります。
- ・学期G P Aが4期連続して「1.0」を下まわった場合は、成業の見込みがあると判断される場合を除き、学部長が退学勧告を行うことがあります。
- ・GPA算定方法は、刊行物の「学生便覧」・「教務のてびき」に記載するとともに、ホームページに公開している。
- ・学生の成績分布状況については、学部・学科・学年別のGPA分布状況(添付資料)を作成(把握)している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	「GPA算定方法」 http://www.fukuyama-u.ac.jp/academic-affairs/subject/entry-5241.html
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【福山大学ディプロマ・ポリシー】

本学に所定の期間在学し、本学の教育理念「人間性を尊重し、調和的な人格陶冶を目指す全人教育」を実践するために定めた教育目的に沿って編成した各学部学科の教育課程、すなわち、共通教育課程（初年次教育科目、共通基礎科目、教養教育科目、キャリア教育科目）並びに専門教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

- 1、人文・社会・自然科学など幅広い分野と専門分野における基礎的知識（活用できる知識）を修得している。
- 2、修得した知識・技能・態度を活用して、地域社会に貢献し得る実践力（創造的活用力・課題探求力・学修力・行動力）を身に付けている。
3. 自己の向上と社会に貢献する意欲を有し、自由な発想で現実の問題に取り組む粘り強さ及び他者と協働して責任感と倫理観を持って行動できる力を身に付けている。

- ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）をホームページに公開している。
- ・シラバスに「ディプロマ・ポリシーとの関連」を明記し、授業科目の位置づけを示している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	福山大学 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/edu/education/policy.html 経済学部 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/contents/ad-policy.html 経済学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/economics/contents/ad-policy.html 國際経済学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/international/contents/ad-policy.html 税務会計学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/tax-accounting/contents/ad-policy.html 人間文化学部 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/human/contents/ad-policy.html 人間文化学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/h-culture/contents/ad-policy.html 心理学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/contents/ad-policy.html メディア・映像学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html 工学部 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html スマートシステム学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/smart-system/contents/ad-policy.html 建築学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/architecture/contents/ad-policy.html 情報工学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html 機械システム工学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/mechanical-eng/contents/ad-policy.html 生命工学部 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/contents/ad-policy.html 生物工学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/biological-eng/contents/ad-policy.html 生命栄養科学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-
----------------------	---

	<p>sci/contents/ad-policy.html 海洋生物科学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/ad-policy.html 薬学部 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html 薬学科 DP http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharmacy/contents/ad-policy.html</p>
--	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福山大学
設置者名	学校法人 福山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/
財産目録	http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/
事業報告書	http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/
監事による監査報告（書）	http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：学校法人福山大学事業計画	対象年度：平成31年度）
公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/	
中長期計画（名称：	対象年度：）
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.fukuyama-u.com/wp-content/uploads/2018/03/H29_evaluation_paper.pdf
--

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://www.fukuyama-u.com/wp-content/uploads/2018/03/H29_evaluation_report.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/contents/ad-policy.html ）
(概要) 経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体を牽引するような潜在力を育むことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/contents/ad-policy.html ）
(概要) 本学経済学部に所定の期間在学し、経済学部及び所属する学科の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のいずれかである。 <ol style="list-style-type: none">1. 基本的な経済理論と経済政策に関する科目を履修してこれらを十分に理解している。2. 現代の経済に欠くことのできない金融が果たす役割や効果について十分に理解している。3. レジャー産業で主要な地位を占めるスポーツの経済的側面とマネジメントの側面を十分に理解している。4. 基本的な経済理論・政策と日本経済を理解した上で、欧米、中国、東アジアのこれらの三極の少なくとも一つの経済的連環を十分に把握できている。5. 経営学、会計学、経済学の広い視野のもとに、企業経営についての理解力、分析力を身に付け、経営者が直面する経営・会計上の諸問題を把握できている。6. その知識を、備後地域をはじめとする企業に適用して、地域企業の経営の現状や発展過程、及びその問題を把握できている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/contents/ad-policy.html ）
(概要) 経済学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、現代経済社会の問題に立ち向かい生涯にわたって社会で活躍できる人間性豊かな社会人として必要な知識・技能・態度を修得するため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。 大学生の学修の出発点としての共通教育を前提に、経済学部の専門教育の基礎として、マクロ経済学、ミクロ経済学、そして基礎簿記等の学部基礎科目を広い視野と実践能力を支える基礎的科目とする。さらに、共通教育ではカバーできない情報科目や、特定の学科やコースに依存しない学部共通専門科目を置く。福山大学教育理念を実現させるものとして、演習（ゼミナール）や担任制度を重視する。 <ol style="list-style-type: none">1. 経済学科<ol style="list-style-type: none">1-1 総合経済コース 経済学の標準的な科目と経済政策のための科目を提供する。1-2 金融経済コース 金融経済にかかわる標準的な科目を提供する。1-3 スポーツマネジメントコース スポーツ経済とスポーツマネジメントにかかわる科目を提供する。

2. 国際経済学科

ディプロマ・ポリシーにある、欧米、中国、東アジアに関する科目群を提供する。さらに、これらの諸国と日本経済とを対照させるための科目群をそれぞれ提供する。国際経済学科学生のグローバル人材能力を涵養するために、海外調査の機会と語学学習機会を提供する。

3. 税務会計学科

3-1 ビジネス・マネジメントコース

会計学・経営学における標準的な科目群を提供する。

3-2 備後経済コース

備後経済にかかわるコア科目を準備し、演習において具体的な地域企業を取り上げ、その経営の現状を調査・分析し、地域経済の発展策やグローバル経済との繋がりを検討する卒業研究を行う。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/contents/ad-policy.html>）

（概要）

経済学部は、経済社会への広い視野と深い理解を育み、企業や組織体を牽引するような学生の潜在力と実践能力を涵養することを目的としています。授業やゼミを通じて、経済や企業の振る舞いを理解するとともに、地域の産業のありようを把握します。そのため、経済学部は次のような人を求めています。

1. 社会や経済の動きに興味を持ち、人一倍の学習意欲と行動力を持つ人
2. スポーツ指導者やスポーツ関連企業で活躍することを目指す人
3. 外国と関わる仕事で活躍することを目指す人
4. 税務・会計・経営の専門家として活躍することを目指す人
5. 主に地域社会で活躍し、地域社会の発展に貢献することを目指す人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、審査・判定を行います。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部経済学科

教育研究上の目的(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/economics/contents/ad-policy.html>)

(概要)

経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、経済や金融そしてスポーツ産業等のありようやあり方に十分な理解を有する人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/economics/contents/ad-policy.html>)

(概要)

経済学科の目的に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士(経済学)を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

(総合経済コース)

基本的な経済理論と政策に関する科目を履修して、経済理論・経済政策とその含意を十分に理解することができる。

(金融経済コース)

基本的な経済理論と政策に関する科目を履修して、現代の経済に欠くことのできない金融が果たす役割と効果について十分に理解することができる。

(スポーツマネジメントコース)

基本的な経済理論と政策に関する科目を履修して、レジャー産業のメジャーであるスポーツの経済的側面とマネジメントの側面を十分に理解することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/economics/contents/ad-policy.html>)

(概要)

経済学科では、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を踏まえ、経済学部の専門教育の基礎として、マクロ経済学、ミクロ経済学、そして基礎簿記等の学部基礎科目を広い視野と実践能力を支える基礎的科目とする。さらに、情報科目や、特定の学科やコースに依存しない学部共通専門科目を置く。以上につき、具体的には次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

(総合経済コース)

…1年次…

基礎学力を補強しつつ、専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「基礎簿記」の学習を通して経済学の基礎を学び、同じく専門基礎科目である「情報処理技法」でデータ分析力を養い、幅広く経済学を学ぶ意義を見つける。

…2年次…

総合経済専門科目である「財政学」、「租税論」等により専門分野の基礎学力を養い、国際経済専門科目である「地域経済論」、「開発経済学」等により教養を広げながら、経済学の理解とその応用を実践できる人材としての自覚を持つ。

…3年次…

総合経済専門科目である「日本経済論」、「マクロ経済政策」、国際経済専門科目である

「オープンマクロ経済学」等の学びを通して専門分野の学力を養い、専門科目の中核となる「経済学演習Ⅰ」により発表・討論力を育て、専門分野の基礎学力を修得している。

…4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、経済理論あるいは経済政策の理解を極めると同時に、社会に有為な人材としての資質を培う。

(金融経済コース)

…1年次…

基礎学力を補強しつつ、専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「基礎簿記」の学習を通して経済学の基礎を学び、同じく専門基礎科目である「情報処理技法」でデータ分析力を養い、経済学と金融論を学ぶ意義を見つける。

…2年次…

金融経済専門科目である「金融システム」、「金融論」等により専門分野の基礎学力を養い、会計・経営専門科目である「経営学」、金融経済専門科目である「経済統計学」等により教養を広げ分析能力を高めながら、経済の根幹としての金融の理解とその応用を実践できる人材としての自覚を持つ。

…3年次…

金融経済専門科目である「ファイナンス理論」、国際経済専門科目である「国際金融論」等の学びを通して専門分野の学力を養い、専門科目の中核となる「経済学演習Ⅰ」により発表・討論力を育て、専門分野の基礎学力を修得している。

…4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、金融が果たす役割や効果についての理解を極めると同時に、社会に有為な人材としての資質を培う。

(スポーツマネジメントコース)

…1年次…

基礎学力を補強しつつ、専門基礎科目である「経済入門」、「経営入門」、「基礎簿記」の学習を通して経済学の基礎を学び、スポーツマネジメント専門科目である「現代スポーツ論」、「スポーツ理論」でスポーツ経済・管理の理解を掘り下げ、スポーツとの関連で経済学・経営学を学ぶ意義を見つける。

…2年次…

専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」の学習を通して経済学の基礎を固め、スポーツマネジメント専門科目である「スポーツ経済学」、会計・経営専門科目である「経営学」等により専門分野の基礎学力を養い、スポーツマネジメント専門科目である「コーチ学」、「スポーツマネジメント論」等によりスポーツに関する教養を広げながら、スポーツと経済・経営の関連の理解とその応用を実践できる人材としての自覚を持つ。

…3年次…

スポーツマネジメント専門科目である「スポーツ経営学」、「スポーツ心理学」、「スポーツ産業論」、「スポーツ統計学」、「スポーツマーケティング論」等の学びを通して専門分野の学力・応用力を養い、専門科目の中核となる「経済学演習Ⅰ」により発表・討論力を育て、専門分野の基礎学力を修得している。

…4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、スポーツ理論やスポーツの経済的またマネジメントの側面の理解を極めると同時に、社会に有為な人材としての資質を培う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/economics/contents/ad-policy.html>）

(概要)

経済学科は、経済学の視座から社会を鳥瞰できる広い視野に加えて、経済問題の把握・分析をする実践的な能力を修得するとともに、経済や金融・スポーツ産業等のありようやあり方に十分な理解を有し、地域社会の発展に貢献する人材を育成します。基本的な経済理論と政策を知る姿勢のあることを前提に、経済学科では次のような人を求めています。

1. 総合経済コース 経済理論あるいは経済政策の含意を十分に理解しようとする人
2. 金融経済コース 現代の経済に欠かせない金融が果たす役割や効果について十分に理解しようとする人
3. スポーツマネジメントコース レジャー産業のメジャーであるスポーツの経済的側面とマネジメントの側面を十分に理解しようとする人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部国際経済学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/international/contents/ad-policy.html>）

（概要）

国際経済学科は、国際的な視野と実践能力を持つ人材を育成することを目的とする。

1. 広い視野と実践能力を持ち、経済や組織体の仕組みや運営に十分な理解を有する者を育成する。
2. 基本的な経済理論・政策と日本経済を知ったうえで、欧米、中国、東アジアの三極の少なくとも一つに十分な理解を持つ者を育成する。
3. 国際経済を日本経済との関わりでとらえることができ、それを社会に活かすスキルを持つ者を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/international/contents/ad-policy.html>）

（概要）

国際経済学科の目的に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（経済学）を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 経済学及び国際経済を深く知っている。
2. 上記1を基礎として、中国、東アジア、あるいは欧米の経済への深い理解を有している。
3. 他国の経済と日本経済との対比が十分できる。
4. 上記1、2、3で身に付けたものをビジネスに活かすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/international/contents/ad-policy.html>）

（概要）

国際経済学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、欧米、中国及び東南アジアに関する科目として、これら地域の国々と日本の結びつきを経済面からとらえる科目を設置する。英語及び中国語については語学関連科目を豊富に提供しているので十分な学習機会が設けられている。国際経済学科のグローバル人材育成のために、3週間の海外研修をともなうトップテンカリキュラムを用意している。以上につき、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

基礎学力を補強しつつ、専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「基礎簿記」の学習を通して国際経済学の基礎を学び、共通教育科目である「日本語表現法」で表現力を養い、生きる・学ぶ動機づけを見つける。

…2年次…

国際経済専門科目である「中国経済論」、「開発経済学」等により専門分野の基礎学力を養い、「英語マスター」、「中国語マスター」により語学力を磨き、「英語ゼミナール」、「海外インターンシップ」等を通してグローバル人材の素養を身に付け、国際人としての自覚を持つ。

…3年次…

国際経済専門科目である「貿易概論」、「オープンマクロ経済学」等の学びを通して専門

分野の学力を養い、「経済学演習Ⅰ」により討論力を育て、専門科目を通してグローバル人材としての基礎知識を修得している。

…4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、自分の専門分野を極めると同時に、自己実現に向けて真のグローバル人材としての資質を培う。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/international/contents/ad-policy.html>）

（概要）

国際経済学科は、グローバル時代のビジネスパーソンに求められる経済問題の把握・分析をする実践的な能力や外国語能力を修得し、企業人又は公務員として活躍し、多面的に海外との関係の深い地域社会の発展に貢献する人材を育成します。そこで、国際経済学科では、次のような人を求めています。

1. 企業の国際関連部門や海外で活躍することを目指す人
2. グローバルな視点で民間企業で活躍し、地域経済の発展に貢献することを目指す人
3. 「公民」の高校教師、「社会」の中学校教師として地域の発展に貢献することを目指す人
4. 大学院に進学し、より高度な専門知識を修得することを目指す人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部税務会計学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.fukuyama-u.ac.jp/tax-accounting/contents/ad-policy.html)
(概要) 税務会計学科は、広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解し、そして活用できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.fukuyama-u.ac.jp/tax-accounting/contents/ad-policy.html)
(概要) 税務会計学科の目的に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。 (ビジネス・マネジメントコース) 1. 経営学、会計学、経済学の広い視野を有している。 2. 企業経営についての理解力、分析力を身に付けている。 3. 経営者が直面する経営・会計上の諸問題を把握することができる。 (備後経済コース) 1. 経営学、会計学、経済学を幅広く知っている。 2. 上記1で身に付けたものを、備後地域をはじめとする企業に適用することができる。 3. 地域企業の経営の現状や発展過程、そして問題を把握することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.fukuyama-u.ac.jp/tax-accounting/contents/ad-policy.html)
(概要) 税務会計学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、経営・会計に関する科目を幅広く提供している。事例を交えた講義も多く、理論と現実の双方を学ぶことができる。ビジネス・マネジメントコースでは多様な企業や産業を分析する能力、備後経済コースでは地域企業について深く理解し諸問題を解決する能力を培うようにカリキュラムを用意している。具体的には次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。 (ビジネス・マネジメントコース) …1年次… 専門基礎科目である「基礎簿記」、「会計学総論」の学習を通して会計学と経営学の基礎を学び、その背景に必要な経済学の知識を同じく専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」で理解し、「日本語表現法」や「情報処理技法」で表現力を養い、学ぶ意義を見つける。 …2年次… 専門基礎科目である「経営学」、「財務会計」、「原価計算論」によって専門分野の基礎学力を養い、同じく専門基礎科目である「マーケティング論」、「税法概論」などによって、所属コースの特徴を明確に認識し、経営や会計を専門とする者としての自覚を持つ。 …3年次… 税務会計専門科目である「経営戦略論」、「経営組織論」、「管理会計」、「税務会計」、「国際会計論」、「監査論」、「法人税法」、「所得税法」などによって専門分野の知識を

深め、企業経営を理解、分析する能力を修得している。

… 4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、自分の専門分野を極め、金融や産業界で活躍するビジネスパーソンになるための資質を培う。

(備後経済コース)

… 1年次…

専門基礎科目である「基礎簿記」、「会計学総論」、「地域調査Ⅰ」の学習を通して会計学と企業経営の基礎を学び、その背景に必要な経済学の知識と同じく専門基礎科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」で理解し、「日本語表現法」や「情報処理技法」で表現力を養い、学ぶ意義を見つける。

… 2年次…

専門基礎科目である「経営学」、「財務会計」によって専門分野の基礎学力を養い、「流通システム」、「備後経済研究」、「備後経済論」、「地域経済論」、「地域調査Ⅱ」、「税法概論」などによって、所属コースの特徴を明確に認識し、地域経済に貢献する者としての自覚を持つ。

… 3年次…

税務会計専門科目である「経営戦略論」、「経営組織論」、「中小企業論」、「備後地場産業論」、「日本経済論」、「法人税法」、「所得税法」などによって専門分野の知識を深め、地域調査研究の成果をまとめることなどを通じて地域企業の経営を理解し、諸問題に適用できる能力を修得している。

… 4年次…

専門科目の集大成となる「経済学演習Ⅱ」及び「卒業論文」を通して、自分の専門分野を極め、地域企業の中核的な人材になるための資質を培う。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/tax-accounting/contents/ad-policy.html>）

（概要）

税務会計学科は、会計・経営を理解した上で、経営者が取り組んでいる実際の経営問題を調査、分析し、改善提案を行う学生を育成するために、経済全体を理解する経済学の学修にも力を注ぎます。また、備後経済をはじめ、全国各地の中小企業の発展のための経営人材を育成します。そこで、税務会計学科は、次のような人を求めています。

1. 社会経済の発展変化はどのように進んでいくのか、企業の盛衰は何によって決まるのか、経営者はどのような役割を果たしているのか、経営において会計の機能はどのようなものかといった疑問を持っており、それを解き明かそうとする意欲的な人
2. 将来、企業人、会計専門家として、日々の仕事の中に生きがいを見出し、社会に貢献していくこうとする人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通じて判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/human/contents/ad-policy.html>）

（概要）

人間文化学部は、人間、人間の創る文化、文化の形成を可能にするメディア・情報という、人間の営みの根幹について広く深く教育・研究し、教養豊かな人間力あふれる職業人を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/human/contents/ad-policy.html>）

（概要）

本学人間文化学部に所定の期間在学し、人間文化学部及び所属する学科の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を取得した者に卒業を認定し、学士の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 人間の営みの根幹について広く深く学修し、豊かな教養を身に付けている。
2. 人間と文化に対する生涯にわたる探究心を持ち、主体的に考え方行動できる。

また、人間文化学部は、異なる名称の学士（文学、心理学、学術）の学位を授与するため、学科で定めるディプロマ・ポリシーが示す資質を身に付けることが必要である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/human/contents/ad-policy.html>）

（概要）

人間文化学部は、人間、人間の創る文化、文化の形成を可能にするメディア・情報という、人間の営みの根幹について広く深く教育・研究し、教養豊かな人間力あふれる職業人を育成することを目的としている。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、それぞれの学科の教育目標も踏まえ、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

1年次：主に共通教育科目と教養教育科目、及び専門基礎科目を通じて、豊かな教養を身に付ける。

2年次：各領域の専門科目を通じて、人間の営みの根幹について広く学ぶ。

3年次：より専門性の高い専門科目やゼミを通じて、人間と文化について主体的に考え方行動する態度を身に付ける。

4年次：学修の集大成である卒業研究、卒業論文を通じて、人間と文化について探求する。

従来から行われてきた知識・技能の獲得を目指した教育に加えて、態度・志向性の獲得を目指した教育を取り入れる。また、学修者が人間と文化について身近な問題を通して、能動的に学べる教育を実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/human/contents/ad-policy.html>）

(概要)

人間文化学部は、福山大学の教育理念である「人間性を尊重し、調和的な人格陶冶を目指す全人教育」に基づき、人間そのものと、人間が創り出した文化と、人と人をつなぐメディアについて学ぶ学部です。そこで、人間文化学部は次のような人を求めていきます。

1. 人間に対して深い関心を持ち、人間が創り出した文化や社会について研究したいという意欲を持っている人
2. 行動力があり活動的な人
3. 社会的視野を広く持ち、社会から問題を見つけ、学んだことを実践し、社会に還元していく意志を持った人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、審査・判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学部人間文化学科

教育研究上の目的(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/h-culture/contents/ad-policy.html>)

(概要)

人間文化学科は、言語、文学、歴史の三領域を主として、世界の芸術や思想も視野に入れた横断的な教育・研究を行う。それらを通じて、豊かな教養と広い視野を具え、主体的に問題を発見、解決する実践力と新しい文化を創造する意欲を有した、地域社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

1. 地元の企業・役所にて、その地域の文化を活かした企画を立案／発信／実行する人間を育成する。
2. 編集者や文筆家として、新しい文化を創造する人間を育成する。
3. 教員として、教材研究と教材開発を怠らず、生徒の成長と人格形成に資する人間を育成する。
4. 学芸員として、資料を保存・活用するとともに、調査・研究にも携わることができる人間を育成する。

卒業の認定に関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/h-culture/contents/ad-policy.html>)

(概要)

人間文化学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士(文学)の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 文化の継承と創造に寄与するための言語運用能力
人間が生み出し、今も生み出し続けている文化(人間文化)の基盤をなす言語運用能力を有している(言語運用能力とは、言語によって自らの意思や論理的思考を適切に表現、伝達し、かつ他者の意思を的確に理解する力である)。
2. 社会が抱える問題の解決に寄与するための幅広い教養と実践力
言語・文学・歴史に関する幅広い教養をもとに、自律的に思考して問題を発見し、解決する力を有している。
3. 社会における多様性を尊重するための多角的な視点
多様な人間が生み出す多様な文化に対して、幅広い視野と寛容で偏見のない態度を有している。
4. 持続可能な社会の形成に寄与するために、自らを高め続け、次世代を育む力
継続的な地域貢献をしていくための向上心と、新しい文化を創造していくために、次世代を担う人間を育成する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/h-culture/contents/ad-policy.html>)

(概要)

人間文化学科では、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を踏まえ、学生が自律的に学べるように、次のような方針に従って学修の系統性と順次性に配慮しながら学修成果基盤型の教育課程を編成し実施する。

…1年次…

共通基礎科目と教養教育科目、及び専門基礎科目(人間文化学部共通科目)と専門科目を

通じて、学びの目的を知り、言語運用能力と実践力の基礎を身に付ける。

… 2年次…

「基礎演習」や外国語科目、「言語・思想」「芸術・文学」「歴史」各領域の専門科目を通じて、社会の多様性を知り、人文学に関する専門知識の基礎を幅広く身に付ける。

… 3年次…

より専門性の高い科目やゼミを通じて、社会に対する問題意識を高め、「言語・思想」「芸術・文学」「歴史」に関する専門知識を深める。

… 4年次…

2年間にわたるゼミでの学びと、学修の集大成である卒業論文を通じて、新しい文化の創造に寄与する方法を発見し、専門知識を活用して社会に貢献する意欲を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/h-culture/contents/ad-policy.html>）

（概要）

人間文化学科は、豊かな教養と広い視野を具え、主体的に問題を発見、解決する実践力と新しい文化を創造する意欲を有した、地域社会に貢献できる人間を育成します。そこで、人間文化学科は次のような人を求めています。

1. 小説、評論などに対する強い関心と高い読解力を有する人。
2. 自分が興味・関心を持つ対象に関して、主体的に思考することができる人。
3. 言語能力（コミュニケーション能力・分析力・表現力・語学力）を磨きたい人。
4. 文化（言語・思想・歴史・文学）について幅広く学びたい人。
5. 文化の創造（イベント企画・雑誌編集など）への意欲のある人。

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学部心理学科

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/contents/ad-policy.html>)

(概要)

心理学科は、人々の心の健康の保持増進に寄与するために、心理支援を念頭に置いて、人間の心のはたらきや行動について総合的に教育する。保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等の諸分野で、心理学の専門的知識と方法を応用できる地域の中核的役割を担う人材や、公認心理師として活躍する人材を育成することを目的とする。

1. 様々な職種と協働しながら、心理学の専門的知識や方法を応用し、問題解決を目指すことができる人材を育成する。
2. 自己理解に基づいた他者との関わりの中から、倫理観を持って、社会における様々な課題に取り組む積極性のある人材を育成する。
3. 地域や社会の動向を踏まえ、心理学が求められる役割を自覚して主体的に行動できる人材を育成する。
4. 公認心理師の資格取得を目指し大学院へ進学し、進学後・資格取得後も自ら研鑽を継続して積むことができる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/contents/ad-policy.html>)

(概要)

心理学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（心理学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 心理学や心理学関連領域に関する豊かな教養を修得している。
2. 心理学の諸領域に関する専門的知識を修得している。
3. 心理学の方法を活用して、心のはたらきや行動を客観的に測定・分析できる。
4. 心理学の方法を活用し、自らが発見した心理学が関わる諸問題を実証的に解決できる。
5. 地域や社会に貢献する意欲を持ち、継続して自己研鑽できる態度を修得している。
6. 個人、集団、文化の多様性を理解した上で、社会の一員として、倫理観をもって他者と協働できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/contents/ad-policy.html>)

(概要)

心理学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、心理学の知識や方法を応用して社会で活躍できる人材を育成する。そのために、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

共通教育科目および人間文化学部の専門基礎科目を通じて、専門教育への導入となる教養と知識を修得する。また、教養ゼミを通じて、自己研鑽の意欲を育む。

…2年次…

実習を含む心理学科の基幹的な専門科目を通じて、心理学の諸領域に関する専門的知識や方法を修得する。

…3年次…

心理学科の発展的な専門科目を通じて、心理学の実践方法を修得する。また、課題実習を通じて、倫理観・他者との協働性を修得する。

…4年次…

専門ゼミで、心理学の専門的知識や方法を活用して卒業論文をまとめる。また、社会において求められる高い倫理観と、他者と協働して問題解決できる能力を修得する。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/contents/ad-policy.html>）

（概要）

心理学科は、心の働きや行動の仕組みについて広く学び、人間関係の調整役も出来る人を育成します。そこで、心理学科では次のような人を求めています。

1. 幅広く心理学を学びたいという好奇心に富み、向上心の高い人
2. 地域や社会に貢献する意欲やボランティア精神を有し、実行に移す行動力のある人
3. コミュニケーション能力を磨き、より良い人間関係・社会を築きたいと考える人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通じて判定を行ないます。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学部メディア・映像学科

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html>)

(概要)

メディア・映像学科は、時代の要請に即したメディアと映像を活かして新しい文化的価値を創造する、幅広いメディアと映像の教育・研究を行い、広報、出版、放送、通信、マルチメディアなどの諸メディアの領域で役立つ知識と技能を有する人材を育成することを目的とする。

1. 確かな知識・技能とともに幅広い視野を持ってメディア・情報社会の最前線で活躍する人材を育成する。
2. 情報社会における倫理観・使命感とともに豊かな人間性に基づいて行動する人材を育成する。
3. 問題解決のための実践力を持ってメディア・映像分野で活躍する人材を育成する。
4. 豊かな創造力を持ってメディア・映像分野の発展に貢献する人材を育成する。
5. 向上心を持ちたゆまず自己研鑽を続ける人材を育成する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html>)

(概要)

メディア・映像学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（学術学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 社会で活躍するための問題解決能力を有している。
2. 社会の事象や個人・集団を深く理解し、またそれらを適切な形で表現するための言語能力を有している。
3. ICT の特性やそれが及ぼす影響に対応するための情報社会について理解している。
4. 社会の動向や変化に対応するための情報収集・分析能力を有している。
5. 多様な表現や創作をするための手法理解とそれを実践する能力を有している。
6. 受け手の印象やインタラクションをコントロールするためのデザインやコミュニケーションの企画・構成能力を有している。
7. 地域の課題の解決に寄与するための社会参加への意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html>)

(概要)

メディア・映像学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、変化し続ける情報社会に対応できる幅広い視野、確かな知識・技術を備えた人材を育成するために、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

教養教育科目と専門基礎科目を通じて学びの目的を知り、専門科目の講義を通じて自分とメディアや映像との関わりについて関心を深める。

…2年次…

専門科目を通じて、映像やデザインなどの表現技術に関する基礎、情報社会に関する基礎を習得する。

…3年次…

専門科目の実践・実習・演習とゼミ・講義を通じて、自らの考えを表現し、専門分野の実践的な学力を培う。

…4年次…

卒業研究及び専門ゼミを通じて、企画・調査・表現・発想・プレゼンテーションなどの能力を活かし、自ら学ぶ態度を身に付ける。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html>）

（概要）

メディア・映像学科は、急速に発展しているソーシャルメディアから従来のマスメディアまで、多様なメディアの役割や機能について学び、自ら情報を創出・発信する能力を育成します。そこで、次のような人を求めています。

1. 表現・会話・コミュニケーション・プレゼンテーションの能力を磨きたい人
2. SNS (Facebook、Twitter など)・テレビ・映画・音楽・ゲーム・CG・Web など、メディアについて幅広く学びたい人
3. 社会の時事的な問題の解決に意欲を持っている人
4. 情報系科目が得意な人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部は、幅広い教養と各専門分野における高度な工学専門知識・技術を習得し、広い視野と豊かな人間性を備えた実践的な技術者の養成を行うとともに、各専門分野における新しい技術を創造し、社会に貢献することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学工学部に所定の期間在学し、工学部及び所属する学科の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を取得した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 人文・社会・自然科学と工学一般及び工学部各学科の専門分野における基礎的知識（活用できる知識）を修得している。2. 修得した知識・技能・態度を活用して、地域社会に貢献し得る実践力（創造的活用力・課題探求力・学修力・行動力）を身に付けている。3. 公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築するために、自己の向上と社会に貢献する意欲を有し、自由な発想で現実の問題に取り組む粘り強さ及び他者と協働して責任感と倫理観を持って行動できる力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、工学を修めた社会人として必要な知識・技能・態度を修得するため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 全学共通教育科目では、学習スキルを修得し、課題探求力、学習力を高めるための「初年次教育科目」、社会人としての基本スキルを身に付けるための日本語表現科目、情報リテラシー科目、外国語科目からなる「共通基礎科目」、社会人としての視野を広げ、豊かな人間性を養うための多様な「教養教育科目」、人生設計やキャリア形成を進める「キャリア教育科目」を置く。2. 専門教育科目では、工学部各学科における卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、専門分野の学修に必要な確かな基礎力を身に付けるための「専門基礎科目」と専門分野の知識・技能・態度を系統的に身に付けるための「専門科目」を置く。3. 工学部の教育課程は、自立、対話、社会参加、自己実現を促す上で不可欠な、他者と協働する力、論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、自己管理力、リーダーシップ、倫理観等を身に付け、社会の変化に自発的かつ積極的に対応し、地域社会との交流を深めるのに役立つ、ときには学科を超えた能動的な学習形態を取り入れた多様な授業を提供する。4. 授業科目の充分な学修時間を確保し、客観的評価基準に基づく成績評価を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html ）

u.ac.jp/eng/contents/ad-policy.html)

(概要)

工学とは、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問です。

福山大学工学部は、数学と自然科学の必要性を理解し、人文科学・社会科学の知見をも活かし、倫理観を備えた知的な「ものづくり」に貢献できる人材、及び、変動を続け、グローバル化する現代社会の諸問題を自ら発見し解決して、社会、とりわけ地域社会の改善に貢献するために、必要な新しい知識・技能を生涯にわたって自ら探求し学修を続ける人材の育成を目指しています。こうした人材が身に付けるべきは、「社会人としての心構え」「コミュニケーション能力」「協働する能力」「基礎的な科学力」「社会に貢献する能力」「研究能力」「自己研鑽」の各資質です。

入学者選抜においては、高大連携の各種方途も活かしつつ、これらの資質獲得への準備状態を多面的、客観的に判断するものとし、大学という知の共同体の一員として、教職員とともに上述した人材育成の目標にチャレンジする意志を持った人の入学を期待します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部スマートシステム学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/smart-system/contents/ad-policy.html>）

（概要）

スマートシステム学科は、生産及びサービスの産業分野で工学技術を基盤とした新製品・新サービスを生み出すことのできる人材を育成することを目的とする。

1. 電子・電気・通信・機械・素材等の産業分野において製品開発・製造技術に携わり、これまでにない発想で新製品の提案をする技術者を育成する。
2. IoT を駆使して電気・機械・通信・設備などの幅広い技術分野の機器を統合した、組込みシステムを生み出すシステムインテグレータを育成する。
3. 電力システム、防災システム、宇宙開発等の分野において社会の安全を守る大型開発プロジェクトを信頼に基づく人間関係を重視しつつ推進するプロジェクトマネージャを育成する。
4. 大学や工業高校において品格と信頼を持って技術教育をする研究者・教員・技術職員を育成する。
5. 地域社会の防災・減災に携わり信念を持って市民の命を守る公務員を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/smart-system/contents/ad-policy.html>）

（概要）

スマートシステム学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 制御系を含む組込みシステムの開発（モデル駆動開発）ができる能力を有している。
2. ハードウェア（電気系、機構系）要素を含む電子制御系開発（モデルベース開発）技術を修得している。
3. 電子・電気計測、通信、エネルギー制御機能を含むハードウェア開発ができる能力を有している。
4. 豊かな感性と品性に基づいて、CAE による製造物の設計と製作、即ちデジタルファブリケーションができる。
5. 要求分析に基づくとともに個性を発揮して企画（機能、基本構造設計）をすることができる。
6. 技術者倫理や法令等の規範に基づく要求分析ができる能力を身に付けている。
7. 上記 1～6 の一連の流れを信頼の人間関係に基づいて統括できる。
8. 上記 1～7 の一連の要素を解釈し、その意義を涵養して地域社会の豊かで安全な生活の構築に活用できる能力を身に付けている。
9. 自然の摂理を探求し科学技術（Science-Engineering）の発展に寄与できる能力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/smart-system/contents/ad-policy.html>）

(概要)

スマートシステム学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、人間的豊かさと社会との共生の理念を基盤とした工学教育を次のような方針に従つて教育課程を編成し実施する。

…1年次…

工学部共通教育科目群、及びプロジェクト教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、数学、物理等の基礎及び電子・電気、機械工学等の基本概念を身に付けるとともに、ものづくりに対する柔軟な発想法を見つける。

…2年次…

工学部共通教育科目群、及び社会安全工学教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、制御工学、プログラミング、プロジェクト管理などの専門知識を具体的な課題への適用を試みることにより技術力の向上の必要性への自覚を持つ。

…3年次…

工学部共通教育科目群、及び社会安全工学教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、電気・電子、機械、プロジェクト管理等の専門性が高くかつ多様な発展的知識を用いてスマートシステムの実現方法を修得する。

…4年次…

卒業研究を含む学科の専門教育科目を通じ、スマートシステムの技術者として総合力を培う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/smart-system/contents/ad-policy.html>）

(概要)

スマートシステム学科は、我々の生活を支える機器や装置を電子・電気工学を礎に高機能化することを学び、生命や環境の保全に立脚した新技術を創造できる知識、技能、態度を有する人材を育成します。そこで、次のような資質を持つ人を求めています。

1. 身近な電子機器や機械装置本体や、その科学的な現象に興味を持ち、知識を身に付ける人
2. 専門分野の基礎となる、数学、物理の必要性を理解し、それらを積極的に学び発展させることができる人
3. ”モノづくり”に積極的に取り組み、自らのアイデアを実現したい人
4. 人及び自然に調和する新しい工学技術を創生したい人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接試験、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 工学部建築学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/architecture/contents/ad-policy.html>）

（概要）

建築学科は、建築の専門家としての良識と倫理観及び、建築とそれに関連する専門知識と技能を身に付け、地域社会のニーズと改善に対して強い意志を持って行動し、自らの専門家としての能力と意識を高めることができる、人材を育成することを目的とする。

1. 建築に関する専門知識と専門技術を身に付け、地域社会に貢献できる人材を育成する。
2. 地球環境と調和した快適で安全安心な都市生活環境づくりを目指す人材を育成する。
3. 建築に関する総合的的理解をもとに、建築の専門家を目指す人材を育成する。
4. 建築の専門家として高度な専門能力を持って活躍できる人材を育成する。
5. 自己啓発力を有し、常に向上心を持って取組む人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/architecture/contents/ad-policy.html>）

（概要）

建築学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 建築の専門家として活躍するための心構えと基礎力
豊かな教養と建築に関する専門知識及び人とのコミュニケーション能力を備え、専門家として良識と倫理観を持って行動することができる。
2. 地域社会のニーズと発展に貢献できる実践力
地域のニーズに対応し、地域の発展に貢献するための課題発見能力を持ち、豊かな地域づくりの実現に向け強い意志を持って実践する能力を有している。
3. 地球環境と調和した安全安心な都市生活環境を構築するための実践力
自然環境と生命に対する敬愛の念を持ち、地球環境と調和した快適で安全安心な都市生活環境をつくるために問題提起や専門的提案を実践する能力を有している。
4. 専門家の基礎となる建築の総合的的理解力
建築を構成する計画、環境、構造等の各分野の基礎知識とそれらの関連性を理解し、建築全体を捉えることができる総合的的理解力を有している。
5. 各分野で活躍できる専門家となるための高度な専門能力
建築の総合的的理解のもとに、次の各専門分野における高度な専門能力を有している。
 - 1) 計画系・生活環境系の分野においては、地域社会の歴史や文化、各建築物の計画条件を分析理解し、望ましい計画・設計条件の構築と計画・設計提案を行い、プレゼンテーションする能力を有している。
 - 2) 環境系の分野においては、自然と調和した快適な都市生活環境をつくるために、持続可能な人と自然との関係に基づく環境工学と設備に関する知識と技術を有し、論理的に示すことができる。
 - 3) 構造系の分野においては、建築物の構法を理解し、それを実現するための材料学的・力学的能力及び建築物の安全性の思想に基づいた構造の解析能力を有し、論理的に示すことができる。
6. 社会や建築の技術の進歩に対応できる自己啓発力と向上心
望ましい地域社会を実現するために社会や建築の技術の進歩に対応するための自己啓発力と専門家としての向上心を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/architecture/contents/ad-policy.html>）

（概要）

建築学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、専門教育科目として建築を構成する各分野の基礎的知識から専門的知識までを修得するために、段階的学習ができるような科目構成とし、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

共通教育科目（初年次教育科目・共通基礎科目・教養教育科目・キャリア教育科目）、専門教育科目（専門基礎科目・専門科目）を通じ、建築の全体像及び理工系分野から人文・芸術系分野に至るまでの広範な分野の基礎知識を学び、コミュニケーション力を育成し、建築への興味と意欲を高める。

…2年次…

共通教育科目の学修を継続するとともに、建築の計画、設計、環境、構造全般にわたる建築コース、福祉や医療を含めた生活環境デザインコース、の2コースのいずれかを選択し、それぞれの専門教育科目を通じて、建築や都市の歴史・文化、建築を取り巻く環境要素等の各分野の知識とそれらの構成の仕組を理解し、専門的スキルを身に付ける。

…3年次…

建築コースはさらに、計画・設計を主としたデザイン系、環境・構造を主としたエンジニアリング系に分かれ、建築の施工、社会資本の整備・維持などの分野も加え、建築各専門分野の理解と応用とともに、建築士等資格取得に向けた演習を行い、地方都市の活性化と再生、社会貢献の意識を醸成するための専門教育科目を学修する。生活環境デザインコースでは、福祉施設の計画設計・バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン等の手法を修得するための専門教育科目を学修する。

…4年次…

これまでの集大成として卒業研究又は卒業設計（専門教育科目）等により、将来、快適な生活環境をつくり、安全で持続可能な自然共生社会を実現するため、総合力とバランスを持った専門家としての自覚を育成し、総合的な知識、技術を修得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/architecture/contents/ad-policy.html>）

（概要）

建築学科は、建築物・インテリアから都市・地域に至るまでの、人間の生活環境全般にわたる幅広い範囲を扱います。特に、将来における地方都市の望ましいあり方を模索し、活性化と再生を推し進めるために、安全で安心な生活環境・品質が保証された建築物、及び地域のまちづくりの実現を担う専門技術者の育成を学科の目標としています。そのために、次のような人を求めています。

1. 建築物・都市・地域・インテリア等の幅広い人間の生活環境に対して興味を持ち、より良い生活環境をつくるための知識・技能・態度を学ぶ意欲がある人
2. 専門分野を修得するための基礎学力を有するとともに、幅広い教養を身に付けるための理工系・人文系・芸術系分野の基礎知識を修得する努力する人
3. ものづくりや空間創造に興味があり、ものを立体的・空間的に捉えることができるとともに、そのための感性を磨き、丁寧な作業をする人
4. 大学で身に付けた知識・技能・態度を、将来の生活環境向上のために役立てようとする強い意志を持つ人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接試験、学習課題などを通じて判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

情報工学科は、情報工学に関する知識と技能を身に付け、情報化社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

1. ソフトウェアエンジニアとして情報工学分野における実践力を持ち、設計・プログラミングできる人材を育成する。
2. サービスエンジニアとして豊かな教養と情報工学に関する広い知識を持ち、情報サービスを提供できる人材を育成する。
3. ITコンサルタント、ソリューションエンジニアとしてコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持ち、協調性と創造性を発揮できる資質を持つ人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

情報工学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 情報処理技術者として設計や開発の諸原理を応用する能力を身に付けている。
2. ITと情報処理及び社会安全工学に関する専門知識を持ち、活用できる。
3. 情報を収集し、チームとして対話と創造性を発揮して課題解決できる。
4. レポートやプレゼンテーションを通して、自主的・継続的に自らの成果に関する情報発信ができる。
5. グローバルな視点と高い倫理観を持って地域社会の発展に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

情報工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

工学部共通教育科目群、及びプロジェクト教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、ITと情報処理を知るとともに、ITの基礎を身に付ける。

…2年次…

工学部共通教育科目群、及び社会安全工学教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、ITと情報処理に関する専門知識・技能を修得するとともに社会安全工学に関する知識を身に付ける。

…3年次…

工学部共通教育科目群、及び社会安全工学教育科目を含む学科の専門教育科目を通じ、ITと情報処理・社会安全工学に関する知識を深め、ITを活用して協調的に課題解決する姿勢を身に付ける。

…4年次…

卒業研究を含む学科の専門教育科目を通じ、修得したITを課題解決に応用し、レポート

作成やプレゼンテーションの能力を活用して、得られた成果を発信する能力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html>)

(概要)

高度情報化社会の中で活躍できる情報処理技術者に必要なITと情報処理を学べる情報工学科は次のような人を求めています。

1. ITと情報処理に興味を持ち、幅広い知識と専門的な技能を学びたい人
2. 課題解決の中で思考・判断・表現を行い、必要な知識と技能を習得したい人
3. 様々な立場や価値観を理解したうえで、自分の役割を考えて行動できる人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接試験、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 工学部機械システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/mechanical-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

機械システム工学科は、機械工学、自動車工学、社会安全工学分野の専門知識を修得し、プレゼンテーションや文章作成の能力などの表現力を身に付け、さらに、倫理・道徳観と社会貢献の精神とともに、創造力と実践力を持った人材を育成することを目的とする。

1. 機械工学の知識・技術と共に3次元CAD/CAM/CAEを修得し、地域産業の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 自動車全般の知識及び技術を修得して、地域の自動車産業界で活躍できる人材を育成する。
3. 社会の安全に関する工学知識及び技術を修得し、生命を尊重する共に地域の安全に寄与できる人材を育成する。
4. 地元優良企業に就職し、強い意志を持って行動し、機械の設計、開発業務に携われる人材を育成する。
5. 機械系エンジニアとして専門力だけではなく、会社組織の一員として他者の個性を尊重し、協調性やリーダーシップ、コミュニケーション能力を発揮できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/mechanical-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

機械システム工学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 機械工学を理解し、普遍的真理を探求するとともに、今後の機械技術の発展に寄与するため必要な基礎的能力（数学、物理）を修得している。
2. 機械工学及び自動車工学の専門知識を修得し、かつ応用できる能力を有している。
3. 機械設計及び製作に必要な3次元CAD/CAM/CAEの基本概念と活用方法を修得している。（機械システムコース）
4. 社会人として必要な汎用基礎力（表現力、論理的思考力、情報処理能力）を修得している。
5. 機械技術者に求められる創造力、考え方、実践力（主体性、実行力、計画力、問題発見・解決力、チームで働く力）を身に付けています。
6. 機械技術者として可能性への挑戦と共に、倫理・道徳観と社会貢献の精神を心得ている。
7. 社会人として必要な協調性と、リーダーシップ、コミュニケーション能力を有し、信頼に基づいた人間関係の構築に向けて努力できる。
8. 自動車整備に必要な機器の使用目的を理解し、各種測定や分析方法などが適切に行うことができる能力を備えている。（自動車システムコース、カーメカニック系）
9. 社会安全に関する工学的知識を習得し、地域の防災や安全、生命の尊重に関して積極的な意志を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/mechanical-eng/contents/ad-policy.html>）

(概要)

機械システム工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、地域産業界に貢献できる人間力を備えた機械技術者・自動車技術者として必要な知識・技能・態度を段階的に修得するため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

… 1年次…

共通基礎科目と教養教育科目、及び機械システム工学科の専門基礎科目と専門科目を通じ、社会人として必要な幅広い教養を身に付け、汎用基礎力（表現力、論理的思考力、情報処理能力）、機械工学の学修に必要な基礎的能力（数学、物理）を向上する。またプロジェクト型授業によりコミュニケーション能力を身に付け、モノづくりの基礎技術・技能の学修を通じて機械工学及び自動車工学・技術の学修意欲を向上する。

… 2年次…

教養を培い汎用基礎力を伸ばすとともに、機械システム工学科の専門科目を通じ、機械技術者・自動車技術者に必要な専門の基礎知識・技術・技能を学修し、実験・実習・演習によって基礎的な実践力を身に付ける。そのため、機械設計及び製作に必要な3次元CAD/CAM/CAE（*）に関する専門科目を設ける。また、社会安全に関する工学的知識を習得し、地域の防災や安全、生命の尊重に関して積極的な意志を持つための社会安全工学科目を設ける。

… 3年次…

教養の深化を図るとともに、機械システム工学科の専門科目を通じ、専門分野における応用的な知識・技術・技能を主体とする実践的な授業を通じて、技術者に求められる創造力、考え方・実践力（主体性、実行力、計画力、問題発見・解決力、チームで働く力）を伸ばす。また、社会安全に関する工学的知識を深める。

… 4年次…

卒業研究を通じて専門の総合力を養い、人間力を備えた技術者としての素養、社会人として必要な協調性とリーダーシップを身に付けるとともにコミュニケーション能力を高め、技術者倫理観と社会貢献及び社会安全の精神を醸成する。

（*） CAD/CAM/CAE コンピューターを援用した設計/製造/解析

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/mechanical-eng/contents/ad-policy.html>）

(概要)

機械システム工学科は、ものづくりの基盤となる機械工学の基礎知識と応用について学び、先端的な設計技術や専門スキルを身に付けて、産業界のニーズに応える専門知識・技術を総合的に活用できる専門総合力や柔軟な発想と実践力のある創造的な人材の育成を目指します。そのため、次のような素質・素養を持った人を求めています。

1. 学習意欲を堅持し、目標に向かって粘り強く取り組む人。
2. 高等学校での基礎的な学習内容を理解し、数学Ⅰ・数学Ⅱ及び物理を学んでいる人。
3. ものづくりに关心があり、特に機械の設計・開発に興味を持っている人（機械システムコース）。
4. 自動車の性能や仕組みに興味があり、自動車を作る仕事に携わりたい人（自動車システムコース）。
5. 地域社会への貢献について関心のある人。

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接試験、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生命工学部

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/contents/ad-policy.html>)

(概要)

生命工学部においては、生命の仕組みを解明し、生物資源、環境、栄養・健康など、人類の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を行う。これらを通して、社会の要請に応えうる確かな能力を備えた人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/contents/ad-policy.html>)

(概要)

本学生命工学部に所定の期間在学し、生命工学部及び所属する学科の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を取得した者に卒業を認定し、学士の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 生命の仕組みを理解し、生物資源、環境、栄養・健康など生命工学部の専門分野における基礎的知識を修得している。
2. 修得した知識・技能・態度を活用して、社会に貢献しうる実践力を身に付けている。

また、生命工学部は、異なる名称の学士（生命工学、生命栄養学）の学位を授与するため、学科で定めるディプロマ・ポリシーが示す資質を身に付けることが必要である。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/contents/ad-policy.html>)

(概要)

生命工学部は、生命の仕組みを理解し、生物資源、環境、栄養・健康など、人々の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を通して社会の要請に応えうる確かな能力を備えた人材の養成を目的としている。ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、それぞれの学科の教育目標も踏まえ、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

- 1年次：専門科目を学ぶための基礎知識（共通基礎科目と専門基礎科目、及び基礎実験）に加えて、社会人として必要な幅広い教養（教養教育科目）を身に付ける。
- 2年次：専門基礎力を養うとともに、専門分野に進むために必要な基礎知識、技術を身に付ける。
- 3年次：より専門性の高い専門科目の専門知識、技能、態度を身に付ける。
- 4年次：3年次までに身に付けた知識と技能をもとに、卒業研究を通して、課題解決力や総合力を修得する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/contents/ad-policy.html>)

(概要)

生命工学部は、福山大学の教育理念に基づいた上で、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に示した目的を持っています。そこで、生命工学部では次のような人を求めていきます。

1. 生物資源、陸や海、環境、ヒトの栄養・健康などに対して深い関心を持ち、それらを研究対象とする意欲を持っている人
2. 探究心が強く、コミュニケーション能力が高く、行動力のある人
3. 人々の抱える諸問題を見つけ、身に付けた能力を社会に還元していく意志を持った人

上記のような知識や能力、態度などの資質獲得への準備状況を多面的、客観的に審査・判定します。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 生命工学部生物工学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/biological-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生物工学科は、生命と自然を尊重し、豊かな教養や専門知識に基づいて真理を探究する能力を持ち、国際性・コミュニケーション力・企画力を有し、信頼に基づいた人間関係を通じて社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。

1. 命の尊さと生命の仕組みを理解し、地球環境と調和した行動がとれた生活ができる人材を育成する。
2. 生命科学の素養を身に付けて、生活の中で様々な課題を論理的に解決することができる人材を育成する。
3. 人と自然が共生し、持続的発展可能な社会を常に意識した生物資源の利用に携わる人材を育成する。
4. 食品や環境物質の生体における機能や効果、及びリスクなどが理論的に考察でき、社会に説明できる人材を育成する。
5. 地域のリーダーとして自然共生社会の構築を目指し、人材育成や人々の生活の質を向上させることができる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/biological-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生物工学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（生命工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質（自然共生社会の一員として生きていくための心構え）は以下のとおりである。

1. 生命に対する畏敬心と倫理観を持ち、人と自然との共生社会において、社会人として必要な豊かな教養と品性を有する。
2. 生命の仕組みを理解するための必要な基礎的な科学力を有する。
3. 生物の普遍性や多様性、食品や環境物質が人に及ぼす影響を理解し、さまざまな課題に対して対応することができる能力を有する。
4. 人の生活の豊かさに向けた生物資源利用や環境保全に関して論理的な説明ができ、協調性と論理性を持って自律的に行動することができる。
5. 生命科学に対する深い見識を通して、論理的思考による問題発見能力と問題解決法を構築する能力を有する。
6. 生命科学の急速な進歩と変わりゆく社会のニーズに対応するためのたゆまぬ自己研鑽を続ける姿勢と意欲を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/biological-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生物工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、人と自然（生物）とが共生する持続的発展可能な社会をつくり上げるために必要な知識、技能、態度を修得するための講義と実験・実習及び演習を配置しており、次のような方針に従つて教育課程を編成し実施する。特にブドウなどの作物栽培（1次産業）からワイン醸造などの発酵生産（2次産業）、さらには加工製品の流通（3次産業）までを一貫して学ぶことができるプログラムが特徴の一つである。

…1年次…

生命科学を学ぶための基礎知識（共通基礎科目と専門基礎科目、及び基礎実験）に加えて、社会人として必要な幅広い教養（教養教育科目）を深め、人と自然とが共生する社会に必要なことについて学ぶ意識を持つ。

…2年次…

生化学系の専門基礎科目や生命探究系の専門科目、及び生化学実験や細胞生物学実験などを通じて、遺伝子・細胞のレベルから、個体の維持、生物間の相互作用までを幅広く学修し、生命の仕組みを解明するための知識や技術の理解を深める。

…3年次…

瀬戸内の里山を舞台にし、生物の持つ力をを利用して、人の生活を豊かにするものづくりについての学修（実験・実習を含む生物利用系の専門科目）を通して、未知の事象や課題に対する観察力、分析力、問題発見と解決力を培う。

…4年次…

卒業研究を通じて、生命に対する畏敬心と倫理観を持った生命科学技術者としての総合力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/biological-eng/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生物工学科の目的を踏まえ、次のような人を求めています。

1. 食と環境、生物や生態系の仕組みなど生命科学に強い興味を持つ人
2. 人と自然が共生するなかで生物の持つ力を活用し、生活や産業の発展、課題の解決にチャレンジする意欲を持つ人
3. ローカルとグローバルな視点を併せ持ち、他の人と協力して社会の発展に尽力したい人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通じて判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生命工学部生命栄養科学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生命栄養科学科は、食を通じた保健・医療・福祉・食品産業分野における支援と活動により、人々の健康の維持・増進、疾病の予防と治癒、生活の質の向上に貢献できる管理栄養士を養成することを目的とする。

1. 人々の健康の維持・増進、及び生活の質の向上を目指して、栄養状態と食生活の改善のための支援・活動を実践できる人材を育成する。
2. 地域社会に暮らすすべての人々の健康の保持・増進のために、積極的な提案ができる展開能力を持つ人材を育成する。
3. 健康・栄養の課題解決に向けて、多職種や関係機関と協働して活動する人材を育成する。
4. 新しい健康・食生活に関する情報を常に収集し、科学的根拠に基づき課題の分析・評価・判定ができる人材を育成する。
5. 食を通して人々の健康と幸福に寄与したいという熱意、並びに管理栄養士としての高い職業意識と責任感を持つ人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生命栄養科学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（生命栄養学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 栄養専門職である管理栄養士・栄養士としての心構えを有している。
2. 心身の健康と栄養・食生活との関わりを理解するための科学的能力を有している。
3. 地域社会の健康の維持・増進と疾病予防に寄与するための実践的能力を有している。
4. 医療・福祉・介護において適切な栄養管理や食事提供を行うための実践的能力を有している。
5. 食と健康に関わる社会的ニーズに対応するための研究能力を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/contents/ad-policy.html>）

（概要）

生命栄養科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、地域社会に暮らす人々に対し、生命科学に基づいた支援と活動を実践できる管理栄養士・栄養士を養成するため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

共通基礎科目と教養科目、及び生命栄養科学科の専門基礎科目を通じ、栄養専門職を目指す気持ちを育むとともに、専門科目を理解するために必要な基礎力を培う。

…2年次…

生命栄養科学科の専門基礎科目と専門科目を通じ、食と健康に関連する栄養学、食品学及び関連諸科学や社会制度についての専門基礎力を培う。

…3年次…

医療・保健・福祉・介護分野における栄養管理プロセス、並びに実践活動の場での学びから、栄養専門職としての専門力と自覚を持つ。さらに、食品の生産・機能・安全に対する理解を深める。

…4年次…

卒業研究による課題解決や卒業演習により、栄養専門職としての総合力を修得する。

入学者の受け入れに関する方針(公表方法:<http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/contents/ad-policy.html>)

(概要)

生命栄養科学科は、食を通じた支援と活動により、地域社会に貢献できる人材を育成するため、次のような人を求めています。

1. 管理栄養士を目指す強い目的意識を持つ人
2. 自然科学の基礎知識を習得し、新たな課題への探究心を持つ人
3. 人の健康に关心を持ち、食・栄養・健康に関する仕事を通じて社会貢献を果たす意欲を持つ人
4. コミュニケーション能力を有し、これをさらに向上させようとする人

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通じて判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針の概要

学部等名 生命工学部海洋生物科学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/ad-policy.html>）

（概要）

海洋生物科学科は、海を身近なものとして利用し守ってきた知恵に学び、広く社会で活躍できる教養と視野を持ち、実践する力のある社会人を育成することを目的とする。

1. 食品の開発、衛生管理、製造等の分野で活躍でき、特に水産系食品に強い人材を育成する。
2. 持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材を育成する。
3. 生態系に関する知識及び調査の技能を活用して、持続可能な社会の構築に向けて企業・研究機関等の環境部門で活躍できる人材を育成する。
4. 水生生物の生理、生態に関する知識や飼育、展示、繁殖に関する技能を活用して、種の保存や希少種の保護を視野に含めた飼育・展示・啓発活動を行う施設、研究機関、企業等で活躍できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/ad-policy.html>）

（概要）

海洋生物科学科の目的に沿って、設定した授業科目を履修して、所定の単位数を取得した者に卒業を認定し、学士（生命工学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 海洋環境と生物に関する基礎知識を持ち、海洋生態系の成り立ちを理解している。
2. 海洋環境の保全と海洋資源の持続的な利用に関連する諸課題を明らかにできる。
3. 社会・文化・自然の多様性を尊重し、幅広い教養に基づいた判断力と広い視野を有している。
4. 自ら目標を設定し、課題解決に向けて計画を立てて実行する力を有している。
5. 研究成果を発表する豊かな表現力を有している。
6. 他者を尊重し、円滑にコミュニケーションを図ることができる。
7. 自然科学に対する興味や関心を持ち続け、自主的・継続的に学習することができる。
8. さらに以下のコース別資質のいずれかを修得している。

（資源利用育成コース）

持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用するための専門的な知識と技能

（フィールド生態環境コース）

生態系に関する知識及び環境調査の技能を活用するための専門的な知識と技能

（アクアリウム科学コース）

水生生物の生理、生態に関する知識や飼育、展示、繁殖に関する技能を活用するための専門的な知識と技能

（水産食品科学コース）

食品の開発、衛生管理、製造等の分野で活用するための専門的な知識と技能

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/ad-policy.html>）

（概要）

海洋生物科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、海を身近なものとして利用し守ってきた知恵に学び、広く社会で活躍できる教養と視野を持ち、実践する力のある社会人を養成するために、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

…1年次…

共通教育科目及び海洋生物科学科の専門基礎科目と専門科目を通じ、海洋の生物と環境について理解するために必要な基礎知識、技術を修得している。

…2年次…

海洋生物科学科の専門基礎科目と専門科目を通じ、海洋の生物と環境の特性についての理解を基に、自らの興味、関心のある専門分野に進むために必要な基礎知識、技術を修得している。

…3年次…

海洋生物科学科の専門科目（主に各コースの選択必修・必修科目）を通じ、海洋生物の育成及び育種、沿岸生態系の調査及び保全、水生生物の飼育及び展示、水産食品の開発及び衛生管理、のいずれかの分野を柱とした専門知識、技術を修得している。

…4年次…

卒業研究を通じ、海洋の生物と環境を取り巻く諸問題を解決するために、あるいは海洋資源を有効に利用するために必要な課題解決能力を向上させ、広く社会で活躍できるための基礎力を修得している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/marine-bio/contents/ad-policy.htm>）

（概要）

海洋生物科学科は、海洋の生物と環境についての深い理解に基づいて、海洋の環境と生態系の保全、あるいは海洋生物資源の持続可能な利用に主体的に取り組み、循環型社会の構築に貢献できる人材を育成します。

このため、海洋生物科学科では次のような人を求めています。

1. 海の生物や環境に強い関心を持っている人
2. 生命を尊重し、自然を敬うことができる人
3. 将来の目標を明確に定め、その目標にチャレンジしようとする意志を持つ人
4. 自らの可能性を信じ、目標の達成のために継続的に学修することができる人
5. 豊かな社会の実現のために貢献する意欲を持っている人

上記のような知識と能力、態度などを身に付けているかを確認するため、必要に応じて筆記試験や面接、学習課題などを通して判定を行います。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html>)

(概要)

薬学部は、医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探求心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的とする。

1. 薬学の確かな知識・技能とともに、幅広い視野を持って医療の最前線で活躍する薬剤師を養成する。
2. 医療人としての倫理観・使命感とともに、豊かな人間性に基づいて行動する薬剤師を養成する。
3. 科学的な思考力及び問題解決のための実践力を持って、多様な薬学関連分野で活躍する人材を育成する。
4. 豊かな創造力を持って医療の発展に貢献する人材を育成する。
5. 向上心を持ち、たゆまず自己研鑽を続ける人材を育成する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html>)

(概要)

本学薬学部に所定の期間在学し、薬学部の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を取得した者に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 臨床で活躍するための薬剤師としての心構え
豊かな人間性に基づいた患者・生活者本位の視点と生命の尊厳に配慮する医療人の視点を備え、ホスピタリティーを持って患者・生活者と接するとともに薬剤師としての使命感、責任感及び倫理観に基づいて行動する。
2. 医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力
生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学力を有する。
3. 医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力
医薬品の適正使用の観点から処方せん監査、疑義照会、調剤、医薬品の供給と管理、安全管理、服薬指導を実践する能力を有する。
4. チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力
薬物療法で主体的な役割を果たすために、他職種と連携して患者情報を収集し、薬物療法における効果と副作用を評価するとともに処方設計の提案を実践する能力を有する。
5. 医療の進歩と改善に寄与するための研究能力
科学的な知識に基づいた論理的思考による問題発見能力と問題解決のための基礎的な実験・研究能力を有する。
6. 地域住民の健康を守るための実践的能力
地域の医療、保健・福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域医療の推進及び人々の健康・公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。
7. 医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力
向上心を持ち、たゆまず自己研鑽を続ける姿勢と次世代を担う医療人を育成する意欲と態度を有する。

8. 薬剤師に求められる総合的な知識
薬剤師になるために必要な総合的な知識を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html>）

（概要）

薬学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、学修の到達目標である「本学薬学部の8つの資質」を、学修者が最も効果的に修得するため、カリキュラムを編成する。カリキュラム編成の中心となる考え方、「学修成果基盤型」教育になっていることである。学修者が各資質を修得できるよう、以下の方針に従って教育課程を編成し実施する。学修成果の評価については、アセスメントポリシーとして明示する。

【1～6年次】

幅広い教養

8つの資質の基盤となる幅広い教養を身に付けるため、全学共通教育科目として、学習スキルを修得し、課題探求力、学習力を高めるための「初年次教育科目」、社会人としての基本スキルを身に付けるための日本語表現科目、情報リテラシー科目、外国語科目からなる「共通基礎科目」、社会人としての視野を広げ、豊かな人間性を養うための多様な「教養教育科目」、人生設計やキャリア形成を進める「キャリア教育科目」を配置する。

【1～4年次】

資質1. 臨床で活躍するための薬剤師としての心構え

「臨床で活躍するための薬剤師としての心構え」を身に付けるため、「倫理観」、「使命感・責任感」、「ホスピタリティーを兼ね備えたコミュニケーション能力」に係る基本的知識を修得し、議論や体験を通して薬剤師としての意識やコミュニケーション力を醸成するプログラムを実施する。その実施のため、「薬学入門Ⅰ・Ⅱ」、「コミュニケーション交流学習」、「生命倫理」、「患者の視点に立った行動」、「事前学習」などの講義・演習・実習科目を配置する。

資質2. 医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

「医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力」を身に付けるため、「生命の恒常性と人体の成り立ち」、「生体内化学反応」、「医薬品の作用」、「医薬品・化学物質の構造と性質」、「化学物質と微生物の生体及び環境への影響」に係る基本的知識・技能を修得するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系・化学系・生物系専門科目」などの講義科目や「実習Ⅰ～実習Ⅳ」、「基礎薬学演習」、「実践薬学演習」、「総合薬学演習」などの実習及び演習科目を配置する。

資質3. 医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力

「医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力」を身に付けるため、「処方せん監査と疑義照会」、「処方せんに基づいた医薬品の調製、供給と管理、安全管理」、「服薬指導」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを実施する。その実施のため、「臨床検査」、「調剤」、各種「疾患の薬・病態・治療」、「薬物動態解析」、「医薬品の安定供給と社会保障制度」などの講義科目や「実習Ⅴ」、「臨床推論演習」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質4. チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力

「チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力」を身に付けるため、「患者情報の把握」、「医薬品情報の把握」、「薬物療法の問題点の評価と問題解決・個別最適化」、「薬物療法の効果と副作用モニタリング」、「医療機関におけるチーム医療」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを

実施する。その実施のため、「臨床検査」、「調剤」、「薬物動態解析」、「製剤と DDS」、各種「疾患の薬・病態・治療」などの講義科目や「実習 V」「臨床推論演習」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質 5. 医療の進歩と改善に寄与するための研究能力

「医療の進歩と改善に寄与するための研究能力」を身に付けるため、「実験・研究能力」、「法令遵守」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合して実践するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」などの基礎から応用にわたる講義科目や「実習 I～V」、「課題研究」などの実習科目を配置する。

資質 6. 地域住民の健康を守るための実践的能力

「地域住民の健康を守るための実践的能力」を身に付けるため、「プライマリケア・セルフメディケーション」、「地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動等）」、「在宅医療・介護・薬薬連携等の地域におけるチーム医療、災害時医療」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを実施する。その実施のため、「生活環境と健康」、「物質の構造と放射線」、各種「疾患の薬・病態・治療」、「化学物質の生体への影響」、「疾病の予防」、「社会・集団と健康」、「地域薬局」などの講義科目や「実習IV」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質 7. 医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力

「医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力」を身に付けるため、自らを振り返り自己研鑽を図るプログラムや、後輩を指導して教育力を修得するプログラムを実施する。その実施のため、「事前学修」、「課題研究」などの実習及び演習科目を配置する。また、これらの能力を修得する基盤として、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」、「実習及び演習」などの専門教育科目を配置する。

資質 8. 薬剤師に求められる総合的な知識

「薬剤師に求められる総合的な知識」を身に付けるため、薬剤師に必要な専門知識を体系的に修得するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」、「実習及び演習」などの専門教育科目を配置する。

【5～6 年次】

8 つの資質を統合して実践し、さらに深く身に付ける教育を実施する。その実施のため、「病院・薬局実務実習」、「実務実習後学修」、「ファーマシューティカルケア総合演習」、「薬学総論」、「課題研究」など実習及び演習科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html>）

（概要）

薬学部は、医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探求心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的としています。そのため、薬学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）である「薬学部の 8 つの資質」を修得することができる、次のような素養を持つ人を求めています。

1. 基礎学力【知識、思考力、判断力】

入学後の学修に必要な基礎学力を有する人

（資質 2、3、4、5、6、8 の修得に必要な素養）

2. コミュニケーション能力【技能、表現力、態度】
主体性をもって友と共に学ぶコミュニケーション能力を持った人
(資質1、4、6、7の修得に必要な素養)

3. 自己研鑽と社会貢献の姿勢【態度】
自ら学ぼうとする姿勢を持ち、何事にも意欲的に取り組むことのできる人
人への思いやりを持ち、薬の専門家として社会に貢献したいと思う人
(資質1、5、7の修得に必要な素養)

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、入学試験において、次に示す視点で審査・判定を行い、多様な人材を受け入れています。なお、学力試験では、薬学領域に必要な知識や論理的思考能力を審査・判定するための「理系科目（数学、理科（物理、化学、生物から選択））」、入学後に必要となる基礎英語力や日本語読解力を審査・判定するための「英語」、「国語」を課しています。入学試験によってこれらの組み合わせを変更し、基礎学力においても多様な人材を受け入れています。

A0 入学試験 :

複数回の課題・面接を重視し、調査書の内容を加味して、総合的に審査・判定します。
学力試験は行わず、課題に対する思考力、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

指定校入学試験 :

学校長の推薦書、調査書、小論文及び面接の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は行わず、高等学校での成績、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

推薦入学試験（A日程・B日程） :

学校長の推薦書、調査書、学力試験及び面接の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は英語と理科（生物あるいは化学）の2科目を課し、試験での基礎学力、高等学校での成績、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

前期入学試験（A日程・B日程）、後期入学試験 :

調査書及び学力試験の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は英語、数学、理科（生物あるいは化学）の3科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

大学入試センター試験利用入学試験（前期） :

調査書の内容及び大学入試センター試験の成績を総合的に審査・判定します。大学入試センター試験は英語あるいは国語、数学、理科（物理、化学、生物から1科目）の3科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

大学入試センター試験利用入学試験（後期） :

調査書の内容及び大学入試センター試験の成績を総合的に審査・判定します。大学入試センター試験は英語・国語・数学から2科目、理科（物理、化学、生物から1科目）の3科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部薬学科

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharmacy/contents/ad-policy.html>)

(概要)

薬学部は、医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探求心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的とする。

1. 薬学の確かな知識・技能とともに、幅広い視野を持って医療の最前線で活躍する薬剤師を養成する。
2. 医療人としての倫理観・使命感とともに、豊かな人間性に基づいて行動する薬剤師を養成する。
3. 科学的な思考力及び問題解決のための実践力を持って、多様な薬学関連分野で活躍する人材を育成する。
4. 豊かな創造力を持って医療の発展に貢献する人材を育成する。
5. 向上心を持ち、たゆまず自己研鑽を続ける人材を育成する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharmacy/contents/ad-policy.html>)

(概要)

本学薬学部に所定の期間在学し、薬学部の目的に沿って編成した教育課程における授業科目を履修して、所定の単位を取得した者に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。なお、卒業時に必要とされる資質は以下のとおりである。

1. 臨床で活躍するための薬剤師としての心構え
豊かな人間性に基づいた患者・生活者本位の視点と生命の尊厳に配慮する医療人の視点を備え、ホスピタリティーを持って患者・生活者と接するとともに薬剤師としての使命感、責任感及び倫理観に基づいて行動する。
2. 医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力
生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学力を有する。
3. 医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力
医薬品の適正使用の観点から処方せん監査、疑義照会、調剤、医薬品の供給と管理、安全管理、服薬指導を実践する能力を有する。
4. チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力
薬物療法で主体的な役割を果たすために、他職種と連携して患者情報を収集し、薬物療法における効果と副作用を評価するとともに処方設計の提案を実践する能力を有する。
5. 医療の進歩と改善に寄与するための研究能力
科学的な知識に基づいた論理的思考による問題発見能力と問題解決のための基礎的な実験・研究能力を有する。
6. 地域住民の健康を守るための実践的能力
地域の医療、保健・福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域医療の推進及び人々の健康・公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。
7. 医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力
向上心を持ち、たゆまず自己研鑽を続ける姿勢と次世代を担う医療人を育成する意欲と態度を有する。

8. 薬剤師に求められる総合的な知識
薬剤師になるために必要な総合的な知識を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharmacy/contents/ad-policy.html>）

（概要）

薬学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえ、学修の到達目標である「本学薬学部の8つの資質」を、学修者が最も効果的に修得するため、カリキュラムを編成する。カリキュラム編成の中心となる考え方、「学修成果基盤型」教育になっていることである。学修者が各資質を修得できるよう、以下の方針に従って教育課程を編成し実施する。学修成果の評価については、アセスメントポリシーとして明示する。

【1～6年次】

幅広い教養

8つの資質の基盤となる幅広い教養を身に付けるため、全学共通教育科目として、学習スキルを修得し、課題探求力、学習力を高めるための「初年次教育科目」、社会人としての基本スキルを身に付けるための日本語表現科目、情報リテラシー科目、外国語科目からなる「共通基礎科目」、社会人としての視野を広げ、豊かな人間性を養うための多様な「教養教育科目」、人生設計やキャリア形成を進める「キャリア教育科目」を配置する。

【1～4年次】

資質1. 臨床で活躍するための薬剤師としての心構え

「臨床で活躍するための薬剤師としての心構え」を身に付けるため、「倫理観」、「使命感・責任感」、「ホスピタリティーを兼ね備えたコミュニケーション能力」に係る基本的知識を修得し、議論や体験を通して薬剤師としての意識やコミュニケーション力を醸成するプログラムを実施する。その実施のため、「薬学入門Ⅰ・Ⅱ」、「コミュニケーション交流学習」、「生命倫理」、「患者の視点に立った行動」、「事前学習」などの講義・演習・実習科目を配置する。

資質2. 医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

「医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力」を身に付けるため、「生命の恒常性と人体の成り立ち」、「生体内化学反応」、「医薬品の作用」、「医薬品・化学物質の構造と性質」、「化学物質と微生物の生体及び環境への影響」に係る基本的知識・技能を修得するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系・化学系・生物系専門科目」などの講義科目や「実習Ⅰ～実習Ⅳ」、「基礎薬学演習」、「実践薬学演習」、「総合薬学演習」などの実習及び演習科目を配置する。

資質3. 医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力

「医薬品の適正使用を実施するための処方せん調剤を実践する能力」を身に付けるため、「処方せん監査と疑義照会」、「処方せんに基づいた医薬品の調製、供給と管理、安全管理」、「服薬指導」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを実施する。その実施のため、「臨床検査」、「調剤」、各種「疾患の薬・病態・治療」、「薬物動態解析」、「医薬品の安定供給と社会保障制度」などの講義科目や「実習Ⅴ」、「臨床推論演習」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質4. チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力

「チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力」を身に付けるため、「患者情報の把握」、「医薬品情報の把握」、「薬物療法の問題点の評価と問題解決・個別最適化」、「薬物療法の効果と副作用モニタリング」、「医療機関におけるチーム医療」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを

実施する。その実施のため、「臨床検査」、「調剤」、「薬物動態解析」、「製剤と DDS」、各種「疾患の薬・病態・治療」などの講義科目や「実習 V」「臨床推論演習」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質 5. 医療の進歩と改善に寄与するための研究能力

「医療の進歩と改善に寄与するための研究能力」を身に付けるため、「実験・研究能力」、「法令遵守」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合して実践するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」などの基礎から応用にわたる講義科目や「実習 I～V」、「課題研究」などの実習科目を配置する。

資質 6. 地域住民の健康を守るための実践的能力

「地域住民の健康を守るための実践的能力」を身に付けるため、「プライマリケア・セルフメディケーション」、「地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動等）」、「在宅医療・介護・薬薬連携等の地域におけるチーム医療、災害時医療」に係る基本的知識・技能を修得し、これらを統合してシミュレートするプログラムを実施する。その実施のため、「生活環境と健康」、「物質の構造と放射線」、各種「疾患の薬・病態・治療」、「化学物質の生体への影響」、「疾病の予防」、「社会・集団と健康」、「地域薬局」などの講義科目や「実習IV」、「事前学修」などの実習及び演習科目を配置する。

資質 7. 医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力

「医療の進歩と社会のニーズに対応するための自己研鑽と教育能力」を身に付けるため、自らを振り返り自己研鑽を図るプログラムや、後輩を指導して教育力を修得するプログラムを実施する。その実施のため、「事前学修」、「課題研究」などの実習及び演習科目を配置する。また、これらの能力を修得する基盤として、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」、「実習及び演習」などの専門教育科目を配置する。

資質 8. 薬剤師に求められる総合的な知識

「薬剤師に求められる総合的な知識」を身に付けるため、薬剤師に必要な専門知識を体系的に修得するプログラムを実施する。その実施のため、「専門基礎科目」、「物理系、化学系、生物系、衛生系、医療薬学系、法・制度系専門科目」、「実習及び演習」などの専門教育科目を配置する。

【5～6 年次】

8 つの資質を統合して実践し、さらに深く身に付ける教育を実施する。その実施のため、「病院・薬局実務実習」、「実務実習後学修」、「ファーマシューティカルケア総合演習」、「薬学総論」、「課題研究」など実習及び演習科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharmacy/contents/ad-policy.html>）

（概要）

薬学部は、医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探求心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的としています。そのため、薬学部は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）である「薬学部の 8 つの資質」を修得することができる、次のような素養を持つ人を求めています。

1. 基礎学力【知識、思考力、判断力】

入学後の学修に必要な基礎学力を有する人

（資質 2、3、4、5、6、8 の修得に必要な素養）

2. コミュニケーション能力【技能、表現力、態度】
主体性をもって友と共に学ぶコミュニケーション能力を持った人
(資質 1、4、6、7 の修得に必要な素養)

3. 自己研鑽と社会貢献の姿勢【態度】
自ら学ぼうとする姿勢を持ち、何事にも意欲的に取り組むことのできる人
人への思いやりを持ち、薬の専門家として社会に貢献したいと思う人
(資質 1、5、7 の修得に必要な素養)

上記のような知識や能力、態度などを身に付けているかを確認するため、入学試験において、次に示す視点で審査・判定を行い、多様な人材を受け入れています。なお、学力試験では、薬学領域に必要な知識や論理的思考能力を審査・判定するための「理系科目（数学、理科（物理、化学、生物から選択））」、入学後に必要となる基礎英語力や日本語読解力を審査・判定するための「英語」、「国語」を課しています。入学試験によってこれらの組み合わせを変更し、基礎学力においても多様な人材を受け入れています。

A0 入学試験 :

複数回の課題・面接を重視し、調査書の内容を加味して、総合的に審査・判定します。
学力試験は行わず、課題に対する思考力、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

指定校入学試験 :

学校長の推薦書、調査書、小論文及び面接の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は行わず、高等学校での成績、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

推薦入学試験（A 日程・B 日程） :

学校長の推薦書、調査書、学力試験及び面接の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は英語と理科（生物あるいは化学）の 2 科目を課し、試験での基礎学力、高等学校での成績、コミュニケーション能力、自己研鑽と社会貢献の姿勢で審査・判定します。

前期入学試験（A 日程・B 日程）、後期入学試験 :

調査書及び学力試験の内容を総合的に審査・判定します。学力試験は英語、数学、理科（生物あるいは化学）の 3 科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

大学入試センター試験利用入学試験（前期） :

調査書の内容及び大学入試センター試験の成績を総合的に審査・判定します。大学入試センター試験は英語あるいは国語、数学、理科（物理、化学、生物から 1 科目）の 3 科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

大学入試センター試験利用入学試験（後期） :

調査書の内容及び大学入試センター試験の成績を総合的に審査・判定します。大学入試センター試験は英語・国語・数学から 2 科目、理科（物理、化学、生物から 1 科目）の 3 科目を課し、主として学力試験で審査・判定します。

②教育研究上の基本組織に関するこ

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/organization.html>
<http://www.fukuyama-u.ac.jp/department/>

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）																		
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計											
一	3人	一					3人											
経済学部	一	14人	6人	9人	2人	0人	31人											
人間文化学部	一	11人	9人	4人	2人	2人	28人											
工学部	一	19人	14人	2人	1人	2人	38人											
生命工学部	一	20人	10人	3人	2人	10人	45人											
薬学部	一	21人	8人	8人	2人	9人	48人											
大学教育センター	一	2人	3人	4人	1人	2人	12人											
国際センター	一	0人	1人	0人	0人	0人	1人											
共同利用センター	一	1人	0人	1人	1人	0人	3人											
社会連携センター	一	0人	0人	0人	1人	0人	1人											
IR室	一	0人	0人	0人	1人	0人	1人											
内海生物資源研究所	一	1人	0人	0人	0人	0人	1人											
b.教員数（兼務者）																		
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計												
0人			165人			165人												
各教員の有する学位及び業績 (教員データベースURL等)		https://www.fukuyama-u.ac.jp/faculty/																
c. FD（ファカルティ・デベロップメント）の状況（任意記載事項）																		

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
経済学部	250人	277人	110.8%	1,000人	1,051人	105.1%	0人	0人
人間文化学部	150人	167人	111.3%	600人	567人	94.5%	0人	0人
工学部	220人	172人	78.2%	880人	674人	76.6%	0人	1人
生命工学部	200人	190人	95.0%	800人	756人	94.5%	0人	0人
薬学部	150人	108人	72.0%	900人	816人	90.7%	0人	0人
合計	970人	914人	94.2%	4,180人	3,864人	92.4%	0人	1人
(備考) 編入学者数は、「欠員の範囲」である。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	176人 (100%)	8人 (4.6%)	150人 (85.2%)	18人 (10.2%)
人間文化学部	90人 (100%)	7人 (7.8%)	77人 (85.5%)	6人 (6.7%)
工学部	130人 (100%)	8人 (6.2%)	120人 (92.3%)	2人 (1.5%)
生命工学部	178人 (100%)	5人 (2.8%)	166人 (93.3%)	7人 (3.9%)
薬学部	138人 (100%)	3人 (2.2%)	105人 (76.1%)	30人 (21.7%)
合計	712人 (100%)	31人 (4.4%)	618人 (86.8%)	63人 (8.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
慶應義塾大学大学院、早稲田大学大学院、神戸大学大学院、大阪市立大学大学院、同志社大学大学院、東京大学大学院、(株)広島銀行、(株)中国銀行、しまなみ信用金庫、ひろぎん証券(株)、東洋証券(株)、福山市農業協同組合、(株)サンドラッグ、(株)マツモトキヨシ、JFEスチール(株)西日本製鉄所、(株)中電工、(株)エディオン、西日本旅客鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、福山通運(株)、(株)北川鉄工所、(株)安藤・間、岡山県庁、山口県庁、愛媛県庁、宮崎県庁、三原市役所、松江市役所、出雲市役所				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	182 人 (100%)	144 人 (79.1%)	11 人 (6.0%)	27 人 (14.9%)	0 人 (0%)
経済学科・国際経済 学科・税務会計学科	182 人 (100%)	144 人 (79.1%)	11 人 (6.0%)	27 人 (14.9%)	0 人 (0%)
人間文化学部	85 人 (100%)	76 人 (89.4%)	4 人 (4.7%)	5 人 (5.9%)	0 人 (0%)
人間文化学科	26 人 (100%)	24 人 (92.3%)	2 人 (7.7%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
心理学科	37 人 (100%)	31 人 (83.8%)	2 人 (5.4%)	4 人 (10.8%)	0 人 (0%)
メディア・映像学科	22 人 (100%)	21 人 (95.5%)	0 人 (0%)	1 人 (4.5%)	0 人 (0%)
工学部	142 人 (100%)	119 人 (83.8%)	12 人 (8.5%)	11 人 (7.7%)	0 人 (0%)
スマートシステム学 科	11 人 (100%)	8 人 (72.7%)	3 人 (27.3%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
建築学科	68 人 (100%)	60 人 (86.7%)	4 人 (5.9%)	4 人 (5.9%)	0 人 (0%)
情報工学科	34 人 (100%)	27 人 (79.4%)	3 人 (8.8%)	4 人 (11.8%)	0 人 (0%)
機械システム工学科	29 人 (100%)	24 人 (82.8%)	2 人 (6.9%)	3 人 (10.3%)	0 人 (0%)
生命工学部	189 人 (100%)	169 人 (89.4%)	7 人 (3.7%)	13 人 (6.9%)	0 人 (0%)
生物工学科	51 人 (100%)	42 人 (82.3%)	1 人 (2.0%)	8 人 (15.7%)	0 人 (0%)
生命栄養科学科	39 人 (100%)	37 人 (94.9%)	0 人 (0%)	2 人 (5.1%)	0 人 (0%)
海洋生物科学科	99 人 (100%)	90 人 (90.9%)	6 人 (6.1%)	3 人 (3.0%)	0 人 (0%)
薬学部	162 人 (100%)	122 人 (75.3%)	17 人 (10.5%)	23 人 (14.2%)	0 人 (0%)
薬学科	162 人 (100%)	122 人 (75.3%)	17 人 (10.5%)	23 人 (14.2%)	0 人 (0%)
合計	760 人 (100%)	630 人 (82.9%)	51 人 (6.7%)	79 人 (10.4%)	0 人 (0%)
(備考)					
経済学部は、学部入試。 転学部転学科 建築→税務(4年次在学)、薬→建築(2019.3卒業)、薬→経済(2019.3卒業)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関するこ

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

『福山大学シラバス作成要領』

http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201905/2019_syllabus-guideline.pdf

『授業科目のシラバス公開』

https://zelkova.fukuyama-u.ac.jp/public/web/syllabus/websyllabuskensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
『学生便覧』(刊行物)、『教務のてびき』(刊行物)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

『福山大学ディプロマポリシー』

<http://www.fukuyama-u.com/education/principles/>

『成績評価/単位認定/GPA算定方法』

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/academic-affairs/subject/entry-5241.html>

『学生便覧』(刊行物)、『教務のてびき』(刊行物)

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	有	48 単位
	国際経済学科	124 単位	有	48 単位
	税務会計学科	124 単位	有	48 単位
人間文化学部	人間文化学科	124 単位	有	48 単位
	心理学科	124 単位	有	48 単位
	メディア・映像学科	124 単位	有	48 単位
工学部	スマートシステム学科	124 単位	有	48 単位
	建築学科	124 単位	有	48 単位
	情報工学科	124 単位	有	48 単位
	機械システム工学科	124 単位	有	48 単位
生命工学部	生物工学科	124 単位	有	48 単位
	生命栄養科学科	124 単位	有	48 単位
	海洋生物科学科	124 単位	有	48 単位
薬学部	薬学科	186 単位	有	48 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法 : http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201906/kyoumu-HP.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : http://www.fukuyama-u.ac.jp/edu/edu-center/edu-evaluation.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.fukuyama-u.ac.jp/cmp/cmp-campus/cmp-map.html>

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/cmp/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
	国際経済 学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
	税務会計 学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
人間文化 学部	人間文化 学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
	心理学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
	メディア・映像 学科	800,000 円	330,000 円	0 円	—
工学部	スマート システム 学科	1,060,000 円	330,000 円	0 円	—
	建築学科	1,060,000 円	330,000 円	0 円	—
	情報工学科	1,060,000 円	330,000 円	0 円	—
	機械システム工学科	1,060,000 円	330,000 円	0 円	—
生命工学 部	生物工学科	1,110,000 円	330,000 円	0 円	—
	生命栄養 科学科	1,110,000 円	330,000 円	0 円	—
	海洋生物 科学科	1,110,000 円	330,000 円	0 円	—
薬学部	薬学科	1,860,000 円	400,000 円	0 円	—

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

授業担当教員とクラス担任及び教務課が連携し、個々の学生の修学状況を確認しつつ、適切な科目履修、自発的な学習意欲の向上に必要な学修支援を進める。また、基礎学力の向上など通常の授業への参加だけでは解決しにくい学修上の課題については、学修支援相談室での個別指導や e ラーニングを活用した自主学習システム等の支援体制を設ける。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

社会人力を高めるためのキャリア教育やインターンシップ資格取得支援などを通じて、各学生が自分の希望や得意分野に応じて就職、大学院進学等の進路を的確に選択できるよう支援する。また、クラス担任と就職課が連携し、面談等を通じて各学生の進路希望や適性を充分に把握し個別の助言や指導を行い、進路決定プロセスを支援する。就職を希望する学生に対しては、職業適性検査の実施、求人情報の提供、就職関連ガイダンスの開催等により、就職活動と就職先決定を支援する。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

生活上の不安や問題の早期解決を図るために、クラス担任が中心となって総合的支援を行うほか、学生課に相談窓口を置いて学生の多様な相談に適切かつ迅速に対応できる体制を整備し、学生個々人の実情に合わせたきめ細かい指導を行う。更に、必要に応じて保健管理センター・学生相談室のカウンセラー等の専門家と連携した支援を行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.fukuyama-u.com/>